

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する
関係住民の意見聴取結果
【議事録】

平成24年11月
国土交通省 東北地方整備局

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見を
聴く場

日 時：平成24年10月22日（月）18:00～19:30

場 所：東成瀬村山村開発センター 大集会室

発表者：意見発表者

○住民（1番）

東成瀬村の●●といます。僕は、この成瀬ダム計画というのは、本当に巨額なお金、これは震災復興にも使えるであろうお金、この貴重なお金と、本当に大切な自然の両方を引きかえにしなければならないものであって、ぜひとも中止していただきたいと思っています。

この東成瀬村の価値の中の本当に最大のものというのは、僕は手つかずの自然が残っていることだと思っています。村は日本で最も美しい村連合というのに入りましたけれども、それこそがほかの市町村に対しても胸を張って誇れるものだというふうに常々思っているわけです。

この報告書を見せていただいて、ダム費用を各対策ごとに分割して比較してあるというのが恣意的ではないかというような感想を持ちました。また、報告書の中の環境への影響は小さいというふうに書いてありましたけれども、このくらいの自然の破壊というのは大丈夫だという考えで事を進めて、本当にその悪い例が、自然を甘く見た悪い例が原発事故だと思うのですけれども、人間の考えを越えて思わぬしっぺ返しを食らうという例はたくさんあると思うのです。このダムについて、村の人の意見を聞きますと、余りおおびらに皆さん意見を言わないのですけれども、聞いてみれば「何でこんなことをやるのかわからない、やめたほうがいいんでねえか」というような声をたくさん聞いています。賛成の方もいますけれども、賛成の方の多くは利水と治水の面でよくなるのではないかという期待を持っている方だと思うのですけれども、農民にどれくらい水があつたらいいかという聞き方をしたら、そうしたら農民というのは勿論ふんだんにあつたほうがいいわけなのです。

僕は埼玉から引っ越してきたのですけれども、埼玉でも田んぼをやっていたのですが、向こうでもっともっと水の条件が悪かったです。本当に週に一遍ぐらいしか

入れられない、順番待ちをして、それで名前を書いて、予約をして、ドッとたくさん入れてというようなことをして、みんな農民は水に関しては本当に工夫してやりくりして日本中頑張っているわけです。だから、どれだけ必要かといったらふんだんにあったほうがいい。その許された条件の中で農民は工夫をしてやるものだと思うのです。だから、この地域が本当に特別に死活的に水事情で逼迫しているというふうには僕は思えないのです。また、今後そこまでの水需要の増加はないというデータもぜひ見ていただきたいと思います。とにかく数千億をかける水というのは余りにも高過ぎますよね。それほど逼迫した水需要とは私は思えない。また、成瀬ダムには実は治水効果というのは極わずかしかないというデータも出ておりますので、ぜひよく見ていただきたいと思うのです。

成瀬ダムの裁判やっていますけれども、その裁判の中においてもまともな反論をいただいていないというふうに聞いております。既に今では先進国の多くが、ダムは環境に対して害があるというふうに断定してやめているダム計画、こういう無駄な巨額な予算がまかり通るといえるのはよっぽど僕なんか思うに大手のゼネコンや何かが政治に影響を及ぼしているのかな、なんて勘ぐりたくもなるわけでありませぬ。

今回のダム計画で水没すると言われている北ノ俣沢なのですけれども、ここは本当に素晴らしいところでして、うちの家族もよく遊びに行くし、うちに東京方面からよく遊びに来る友達がたくさんいるのですけれども、口々にここは本当に素晴らしいなど、ずっと釣りをしたり、溪流歩きしたり、そういうふうにしたないと、こんなところがなくなるなんて、こういうところがなくなると聞いて何にも言わないなんて、秋田の人どうしたのなんていう声をたくさん聞きます、私も当然だと思うのですけれども。

この東成瀬村にはちょっと前に制定されたふるさとの歌というのがあるので、けれども、緑とともに生きていこうみたいなフレーズがあります。各学校の校歌なんかでも本当に自然が大事だという歌詞が入っています。日本で最も美しい村連合に入っているこの東成瀬村であるならば経済効率やなんか様々なことよりも本当に自然を優先する、大切にするというような哲学をこれから持っていてもいいのではないかと思ったりするわけなのですけれども。

私の意見は以上でございます。

○住民（2番）

十文字町の●●と申します。

ここ最近 I M F が日本国内で総会を開催いたしました。この I M F が何年か前に日本政府に対し、先進国の中で最も財政が深刻化しているのは日本であるとして、財政再建の具体策を講じるよう勧告を行いました。

I M F がなぜ日本にだけこのような勧告を行ったかといえ、それはとりもなおさず日本の財政がいかに危機的状況にあるかを象徴しているからだと思います。

一方、日本の人口はどのような状況にあるかといいますと人口減少が始まりました。単に始まったのではなくて、過去に例がないほどのスピードで人口減少が続くだろうと予測されています。人口減少が続けばどういう現象が起きてくるのでしょうか。当然米の需要は減るでしょうし、水の需要も減ることになります。米の需要が減るということは、米は増産するのではなくて減産が必要になるということだと思います。減産が必要だということは、当然減反が増えると思います。減反が増えるのにどうしてダムをつくって農業用水を増やすのでしょうか、こういう理屈が成り立つのでしょうか、そもそも。

I M F がなぜ日本にだけこういう勧告を行ったかといえ、先ほども申し上げましたが、やはり日本の財政状態が G D P の 200% 以上もの借金を抱えているということと無縁ではないと思います。私はダムについては何もかにも反対しようとは思いませんが、財政と無関係にダムだ、道路だ、新幹線だというわけにはいかないのではないのでしょうか。

これから人口が減っていきますと米が減るだけではなくて、やっぱり水の利用も当然減ると思います。交通量も減るのではないのでしょうか、人口が減るのですから。そうすると、こういう方面に余り金をかけますと財政がもたなくなってくるのではないかというのが私の心配しているところです。いや、多くの方がそう思っているのではないのでしょうか。そう考えますと、やはりこれから最も考えなければならぬのは、やはり財政の再建ということをそろそろ考えなくてはいけなくなっているのではないのでしょうか。景気が回復すれば借金は返せるとのんきなことを言っている人がいますが、景気は回復するどころか、これからだんだん悪くなるということではないのでしょうか。そういうことが心配されると思います。

なぜかといえば、まずヨーロッパの状況を見てください。もう惨憺たる状況かと思えます。では、中国はどうでしょうか。ヨーロッパが中国から製品を買ってくれなければ、やっぱり中国も大変だと思います。もう既に中国の経済状態は右肩下がりが続いていると思います。アメリカはどうでしょうか。やはり膨大な財政赤字と高い失業率、過去には大量の国債を発行して中国に頭を下げて引き受けてもらってどうにかこうにか持ちこたえています、アメリカを代表するゼネラルモーターなんていうのは最近話題にも上らなくなりました。さらに、最近までものすごい勢いで伸びてきた新興国、ブラジル、ロシア、ベトナム、タイなどは、最近経済力がガクンと落ちてきました。

日本の周辺の国々がこういう状況で、果たして景気が回復するのでしょうか。日本だけが景気が良くなるというのは考えにくいと思います。私はむしろ悪くなると、これから。そういうことが心配されると思います。

財政状態を考えると、とてもダムだ、道路だ、新幹線だというわけにはいかないのではないのでしょうか。

以上が私の言いたいことです。終わります。

○ 住民（3番）

十文字町から来ました農家の●●といます。

平成6年の岩井川地区で、これは成瀬ダムのパンフレットなのですが、ここにこういう写真が出ておまして、国道342号線のほうに洪水で冠水したと、いかにも成瀬ダムができればこの洪水が解決するというふうなニュアンスのパンフレットなわけですが、その後、湯沢工事事務所長になられた●●さんという方がおられましたけれども、成瀬ダムによってもこの種の洪水は解決できないということをおられました。なぜならば、あそこは合居沢という、397号線のほうから来る水、あのときは非常に多かったわけです。要するに、ダムというのはそのダムのある上流にいっぱい雨が降って、それをコントロールできればもちろんその下流は効果をなすわけですが、雄物川水系全体を見て、ごく一部しか成瀬ダムはカバーしていないわけです。同様にここ50年ぐらいで雄物川水系で洪水が起きている。特に大仙市周辺の洪水を見ても、ここに同様に写真が載っておりますけれども、雄物川に流れ込む中小河川の合流地点で大きな洪水が起きてお

るわけです。ですから、そういった洪水を真摯に考えてみますと、そういう非常に局所的なダムによる方法ではなくて、その合流点の水のコントロールをどうするかということを真摯にシミュレーションする、どういうふうな方策がいいかということを中心に考えていただきたいと。ダムというのは、そういう意味では非常にギャンブル的であるというふうに私は思っております。

さて、次が環境の問題ですけれども、隣の皆瀬川では非常に川が汚れて、濁りの川となっております。そして、この成瀬ダムによっても選択取水というものを、そういう設備をするから川は汚れないのだという、そういう主張をされているわけですけれども、その最新の選択取水を取り入れた横手市の大松川ダム、そこの下流を見ているわけですが、しばしば濁っております。こういった現実をもちろん役人の方は見ているわけで、そこをきちんと評価すべきであると。そして、ダム先進国でありますアメリカでは、こういった河川への影響を考えまして、ダムを撤去するという方向に動いてきております。日本の官僚の皆さんは優秀だと思います。そういった世界的な流れというものを十分考えて、日本のダム政策を方向転換する時ではないかというふうに思っております。

この東成瀬村には赤滝という、私は非常に素晴らしい滝だと思っている、そういう滝があります。なぜ素晴らしいかというと、落差はそんなに大きくないのですけれども、上流、下流、そして脇から見る事ができる非常に珍しい滝です。秋田には素晴らしい滝がいっぱいありますが、やはり滝というのはどうも下から眺めるとい、そういう滝なわけですけれども、赤滝の場合はすべて上から、下から、横からという、そういうすばらしい景観を持った滝です。この自然遺産をぜひとも残すべきだと、そういうふうに私は考えております。

以上で終わります。

○住民（4番）

●●と申します。よろしく申し上げます。野球ならば4番打者なんていうのはすばらしいと思うのだけれども、私はどっちに向けてもそういう立派なことは言えませんが、ふだん思っているダムとか自然に対する思いとか、経験を若干ですが、語りたと思います。それで意見にかえたいと思います。

初めにですけれども、前のNHKの土曜コラムで、朝の熊の出没が今年に入って

非常に多いということで、熊出没問題で日本防災機構の会長、NHKの元解説委員の誰でしたっけ、皆さんわかると思いますが。彼は、自然と人間との関係において、さっき●●さんもお話しなさっていましたし、皆さんもお話ししていましたが、共存しなければ本当のいい地域社会ではないということで、彼は熊を撃ち殺すのは全てではないのではないかなということを書いていました。本題に入る前に、だからダムというのはとてつもなく自然を破壊するものだということを根っこに据えて、私たちも、それから行政に携わる方もよくよく考えてもらいたいと思うのです。

でもって、調査に入るときに、何年前ですか、あそこの車を置くところの休むところ、ちょっと地点は忘れたのですが、さっき話された北ノ俣沢のほうではないですけれども、クマタカの巣があったのですけれども、それ調査の妨害ではないでしょうけれども、調査の方がいろいろ立ち回っているうちにクマタカの巣が落ちてしまったというふうな、今の熊との関係ではないですけれども、非常に嘆き悲しむようなことが、残念ですけれども、平然と起こりました。ということは、やっぱり私たちから見れば本当に心痛めることではありました。ということで、本題に入ります。

ダムの話というのは、私もこのとおりの成人式3回を超えた年代でして、昭和30年中ほどから40年にかけて米をまずつくれ、産めよ、増やせよで、500億ドルとかということで、猛烈な増産運動が始まりまして、農村は開田、開畑のブームがありました。

ところが、昭和40年代に入ったら、今度はグローバル社会経済の中で減反政策が急に始まりました。ということで、米作のための、残念ですけれども、米の農業用水というのは間に合うようになったのです。ダムをつくらなくてもいいようになったわけです。言ってみれば30年末から40年にかけてのこのダム建設というのは米増産時代の遺物というかな、悪い意味でのというか、遺産であるということをもまず考えの基本に、根っこに考え直すべきときだと思うのです。

2つ目です。治山、治水の話になると思いますけれども、●●さんという全国ダムの研究者の方、女性の方がいるのですけれども、治山、治水の費用対効果は彼女の研究によれば0.9前後とかとっておられました。ということは、●●さんもおっしゃいましたけれども、ダム建設に1,530億円までかかると。県北のこの前完成

した、何ダムでしたか、私はこのごろ物忘れがひどいものですから。それだって結局完成するまで2倍ばかりかかっているのです。ほとんど全国のダムはそうなのです。そういう意味で、3,000億円の投資効果があるのですか、それが本当に効果として住民福祉、住民生活、農業政策も含めて保障されるものなのか非常に疑問だというのがまず私の気持ちとしてあるわけです。

それから、3つ目です。自然破壊の問題ですけれども、さっき●●さんもおっしゃいましたけれども、水質汚濁です。あれは県の県営大松川ダムでしょうが、建設されて、水はまずある程度保証されたというのだけれども、やっぱり汚濁でアユ釣りのお客さんたちは、7月あたりからいた釣り天狗たちの姿は今は本当にめっきり少なくなったのです。ましてやあそこの増田のところの合流点なんかは皆さんごらんになっているのだからどうかかわからないけれども、やっぱり皆瀬川のダムの水はやっぱり濁っていて、ダムのない成瀬川の水はきれいで、やっぱり合わない男と女の関係みたいな感じで、何かそのあたり考えるところがあると思うのです。

それから、4つ目です。先ほど国交省の担当の方の説明にもありましたけれども、治水の面です。水害常襲地点と言われる仙北の強首と言うのですか、洪水地帯なようですけれども、堤防というか、かさ上げをすれば少ない費用で、ダムで3,000億円、1,500億円かけるなんていうよりも非常にできるのではないかと。ということは、刈和野のあそこの10年前後までは、15年ぐらい前ですか、洪水の常襲地帯でした。ところが、かさ上げしてやったら、もう今はほとんど洪水がなくなったのです。ということで、ダム、ダム、ダムなんていうのはよく言うのだけれども、ダムの反対はムダだということを私はもう見ているのです。ましてや、平鹿の奥の奥のあそこの高いところに水害のダムをつくったって上流ですからね、この水害、治水の効果なんていうのは、私はさっきの女性の研究者ではないけれども、やっぱり効果は危ういというか、疑問だと思うのです。

それから、5つ目ですけれども、県南の役内川ですね、今は県南の清流としてアユ釣りの客、それから花火大会の場所ですけれども。やっぱりあれですよ、反対運動があって清流が守られたということで、最後の清流と言われる四国の四万十川ではないけれども、やっぱり自然があるというのはすばらしいことだと、自然の手つかずの川というのは。それをよくよく考えてほしいということです。

それから、まとめにかかりますけれども、やっぱりダムで栄えた地域は日本全国

どこにもありません。隣の湯田ダム、昭和41年のときに完成したようですけども、すばらしいなんて言いながら、まず今の閑散とした、人の減った湯田、湯本の地域を見ればもう泣けてきますよね。ということです。

それから、さっき私も言われたのですけれども、きょうの公聴会ですね、村民の方、村長はPRするのかなと思ったのです。村民みんなに来てもらいたいなという気が本当にあるのか。言ってみればさっきの説明の方は30分しゃべると言ってみれば50分しゃべったのですよ。我々がしゃべれば隣の担当の方は、●●さんでないけれども、「やめ、時間だ」なんて言うのです。全くね、国、独占企業なものだから、残念だけれども、おめら下なんだから言うこと聞け、時間だから帰れと、とっとと終われと、言ってみれば愚民政治、大衆を見下しているというふうにしかなれないのですよ。

ところが、私達この年代になって、あの税、この税と、歌の文句ではないけれども、どんどん負担がふえていくのです。ダムももう3,000億円、この先真っ暗なのです。そのあたり、納税者は私だということをよくよく考えて、行政とかその他なんていうのは二の次、三の次だということを何か思う。よくよく考えてほしいということで、さっき資料100ページ、数百ページになるのですけれども、東電の被害申請書はそうでしたよ、私も聞きました。とてもではないけれども、被害を受けた人、そのページ見て、200ページの申請書のテキスト見て、申請書なんか書く気にならないというのだよ。やっぱりわかりやすいようにこの村、3,000人にわかるようなもっと楽なパンフレットを平鹿中に、対象者、農家にもみんなわかるようなパンフレットを20ページか50ページでもいい、そういうのをぜひつくり直してほしいということも要望しておきたいと思います。

それから、ダムやったけれども、皆瀬のダムもヘドロ溜まって、あれ豪雪のときにうまく流すようにということでやったけれども、つくればいいということではございません。さっきの説明の方は10年もつとか、20年もつなんて言ったけれども、それとともにどんどん底にヘドロが溜まってダムは使い物にならなくなるということで、時代としてはもう完全におくれているということも含めてほしいと思います。

最後ですけども、有識者会議でオーケーとれたからと言ったけれども、その有識者会議なるものは、ここの村長さんと同じ組合長さんというのは、何ていうか、

みんなあの人達やめる人達なのです。やっぱり少ない収入で、負担をし続けるのは私たち国民だということよくよく考えて、やっぱり有識者会議でオーケーとれたからなんていうのは、これとんでもないことで、ダム推進の人たちの、言ってみれば、言葉悪いけれども、アリバイのためにやっているのではないか、有識者会議なるものの限界をよくよく考えて、余り当てにしないで本当の気持ち、思いは私たち住民であるということを訴えて終わりたいと思います。どうもありがとうございました。失礼します。

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見を
聴く場

日 時：平成24年10月24日（水）18:00～19:30

場 所：横手市栄公民館 和室

発表者：意見発表者

○住民（1番）

増田町から来ました●●といます。私らのパブリックコメントに対して一つ一つ丁寧に回答いただきましたこと、及びたくさんの方の治水、利水、それからその他に対していろいろと、物すごく資料も読み切れないうくらい膨大な数ですけれども、そういうことに対してのいろいろとご研究あるいはご検討なされたことについては感謝いたします、ご苦労さんと思います。

ただ、1つ最初に言いますと、この公聴会のあり方ですけれども、住民の意見を聴くといいながらも、それから検討の場もそうですけれども、私はずっと、昨年度からホームページを河川事務所、それから秋田市も見ております。私はこの公聴会を知ったのは、たまたま2日ちょっと旅行しておりましたので、5日の金曜日の発表なわけです、その日付になっております。ところが、6日、7日、8日と連休なわけです。記者発表したとしても次の日載るわけです。ほとんどの人が見ないと思います。ホームページも多分休みはあけません。私は、10日の日に帰ってきて5日間ブランクがありました。またパブリックコメントをとるようすけれども、それについて5日から11月2日なのです。これもおかしいのです。3日間のロスあるのだったら3日間後に延ばしてもいいと思います。

何か住民の意見を聴くと言いつつも、この会場の選定もそうですけれども、いろいろあるかと思いますが、まず栄地区というのはダムについてはほとんど利益はありません。それから、大仙市の西仙北町もそうだと思います。やるならせめて利害関係のある場所で、横手市の中心街でやってほしいと思います。しかも、こういう状況ですけれども、もう少し多くの意見を聴きたい意思があるのかどうかだと思います。こういう和室でなくて体育館で大々的にやっていただきたいと思いません。そういうことがまず1つ。

今言いましたように、非常にいろんな案をご検討なされたご苦勞については感謝いたしますけれども、皆さん見ておわかりと思えますけれども、例えば胆沢ダムから水を持ってくるとか、出羽丘陵にトンネルあけてやるなんて、これ到底考えたって、考える必要もないような案まで出しているのですよ。そんなことに頭を使う必要があったら、もっと現実的なことに頭を使ってほしい。

例えば農業用水について言えますけれども、これもパブコメで言っていますけれども、皆瀬ダムの運用を変えればいいわけなのですよ。7月1日という四角四面な日でなくて、何も8月いっぱいとか7月いっぱい延ばせとは言っていない。しかも、この気象学が進歩している中でですね。あれも見ましたらダムを空にしてからまたあれするのに45時間くらいかかると言いましたけれども、台風の襲来だとか、集中豪雨だって非常事態ですけれども、台風の襲来は何日か前にわかるわけですよ。だから、そのときにやっておけばいいのであって、こういうアメダスや何かが進歩しているときに、そこに行って、実験して、ほかのものに考える、くだらないと私は思いますが、そういう案を出す。また実際にやって検討して、そっこのほうに頭を使ってほしいと私は思います。後でも言います。

それから、洪水対策は、成瀬ダムをつくっても全然意味がないのですよね。後の方でも言えますけれども、必要なのは雄物川中流域の刈和野とか、大沢郷ですか、あのあたりの堤防の整備なのです。言っているように流水の何%しかその影響を及ぼさない、遙か彼方にあるダムになるわけです。

私は思いますが、八ッ場ダムもそうですけれども、利根川整備基本計画と同じく雄物川もできておりません。なぜできないかという、私考えたのですけれども、ダム湖でなければだめだから、整備計画をつくって、堤防をつくってしまうとダムできなくなるからではないかなと、うがった考えを持っております。

後からまた言えますけれども、水道問題、その他について言えますけれども、人口が減っているわけです。例えば南外村なのですけれども、これもとても数百人程度で倍になるわけです、利水が。よくよく見たら全戸に普及させるためなのですけれども、ここに私持ってきてありますけれども、大仙市、横手市、湯沢市とも4分の1近く人口が減ります、4分の1以上、二十何%。それからいろんな節水機能がふえているわけですよ。そういう中で、水道が必要だということがそんなに多くなるとは思いません。

まして、私もそうですけれども、それから湯沢地区も同じでありますけれども、それらの集落は町と違って離れているわけなので、そこにつくる水道管が非常に距離が高くつくわけです。ということは、やはり利用者について、水道料金に高くはね返ってくると思います。消雪費は上がる、電気料が上がる。そういう中で、年寄りが新しく水道を引くお金はありません、下水道にしても同じです。そういう状況です。我々年寄りたちは早く死んでしまえってか、そういうことかと思えます。

それから、もう一つ、横手市長さんなんかは、いっぱい利水が必要だと言っていますけれども、今はT P Pが問題になっているわけですね。これに参加すると日本の農業、横手地域の農業なんていうのは壊滅的になるわけで、そうするとダムをつくるためには国交省はT P Pに反対をしなければならないというのが私の思いです。

○ 住民（2番）

●●がちょっと家庭の事情で来られませんので、私が読んでくださいということで代読いたします。同じく増田町の者です。

さて、計画されている工事中の成瀬ダムは、洪水調節の役目を果たすには無理があります。ご存じのとおり、成瀬ダムの集水面積は雄物川流域のわずか1.7%しかありません。これはさっき私が言ったとおりです。東北地方整備局さんでは治水寄与率最大4.7%としていますが、どのような計算をすればこのような数字が出るのか大きな疑問です。仮にその数字を認めたとしても最大で4.7%、余りにも小さい数字です。計画されているダムの下流には広大な奥羽山系の山々、沢、川が存在しています。少しでも川の洪水を抑えたい気持ちは理解できますが、微々たる効果のために巨額の工事費、税金が投入され、かけがえのない奥羽山系の大自然を破壊するのは成瀬川流域の住民として納得できません。

資料4の400ページに安全度。後半に、段階でどのように安全度が確保されるかとあります。中流部に進んできた段階的な改修工事、中流部の一部無堤箇所築堤がおおむね完了し、とあります。では、平成15年から平成20年度までと期間を明示し、110億円の事業費で計画された雄物川中流部では、中流部緊急対策事業はどのような経過を見たのでしょうか。用地の買収は、関係する家屋123戸の移転は何戸進んだのでしょうか。雄物川中流地区は約20キロにわたり無堤であるためとありま

すが、計画の新規築堤10.2キロのうち何キロ完成したのでしょうか。工事期間は過ぎていますが、ほとんど完成を見ていません。計画どおり緊急に対策事業を終えていれば、平成22年、一昨年6月24日、25日の水害はかなりの軽減を見たはずですが。仮に成瀬ダムができていたとしても、あの水害にどれだけの抑制効果があったのでしょうか。しかも、上流には玉川ダム、鎧畑ダム、南外ダム、大松川ダム、皆瀬ダム、大小合わせるとかなりのダムがあるのです。ダムには洪水が防げないのが証明された水害だと思います。

玉川との合流点から下流、特に東北地方整備局でも認識されているとおり、支流土買川合流付近では、水害の多発地帯、常襲地帯です。緊急対策事業が作成された区間を含めてその上流、下流部分の築堤や河道掘削など河川改修を急ぐべきであり、まさに緊急の課題です。流域の住民が雨降るたびに洪水に怯えています。ここには、私ら●●と一緒に昨年現地を見に行っております。そういう声であります。

成瀬ダムの代替案として、雄物川全川にわたって築堤するとか、全川にわたって河道掘削するとかという話ではありません。また、10年後とか20年後といった話ではないのです。近年経験する降雨は局地的であったり、ゲリラ的であったり、過去のデータが参考にならないような豪雨が多くなっています。流域住民の不安を鑑み、一刻も早く完成させるべきであり、待ったなしの状況です。

子吉川も見てきましたけれども、本流の水があふれているために支流の水が入れないで逆流している、いわゆる内部氾濫に近いと私は思います。ですから、やはりあの付近では、築堤を急ぐべきだと私は思います、あるいは遊水地ですね。

成瀬ダムは、国土交通省の説明資料によりますと何の障害もなく、予算も予定どおりおりると仮定して完成まで12年の歳月を要し、国交省の試算でこれから1,230億円のお金がかかります、残額ですね。しかし、東日本大震災の復興や、国の財政事情により成瀬ダムに向けられる予算には限度があります。ちなみに、昨年は19億数千万円、ことしは9億数千万円でした。単純に平均しますと1年に100億円ずつかけないとダムは完成しないわけですが、そのようなお金は現在の日本国にはないと考えます。

このようなことを考えまして、ダムの完成まではまだかなりの年数を要します。災害はいつやってくるかわからないのです。今やらなければならない緊急の対策をしてください。ダム建設は即刻中止し、ダムよりも洪水常襲地帯で雄物川中流部の

河川改修こそ重点的にやるべきだと思います。

以上です。

○ 住民（3番）

十文字町の●●といいます。ただいまのお話を聞きまして、私はここで発表するのが不適當ではないかと思ったのですけれども、一住民としてこのダムの問題についてこんなふうな考え方を持っている人というのは結構多いのではないかとということで、代表してということではないのですけれども、直接ダムの問題にかかわった人間ではありませんけれども、公共事業ということと関連させて、このダムの問題について、私はこういうことを考えています、ということを発表させていただきたいと思ってここに座っているところなのです。

それで、大まかにどういうことを話したいかということ、公共事業ということに関連してになります。ですからほかの公共事業はいっぱいありますけれども、ダムを含めて無駄な公共事業をやめようではないかと、こういうことが合い言葉になってからしばらく経ちます。その無駄なというところをですね、だから公共事業自体を反対するという人はそんなに多くはないと思うのですけれども。問題は「無駄な」という言葉をつけるところでこの問題が出てくるわけですね。そこのところをやっぱり我々がどこがどういうふうな問題なのか、これを検討すると、しっかりとこれをつかまえるということが大事なのだろうというふうに思っているわけですね。

それから、次は無駄ということが生じている原因はどこにあるのだろうかというふうに考えてみますと、公共事業の実施の主体である政府というのは費用と、それからそこから得られる便益という言葉があるのだけれども、比較分析をするという仕組みそのものが徹底していなかったということがあろうかと思うのです。これがどこから来ているかということは、今は詳しく言いませんけれども、事業を開始するに当たって必要なコストの試算はするのだけれども、公共事業をすることが第一目標であるというふうになった場合にどういうふうになるかということ、これは反対を避けるためにどういう方法をとるか、指摘したかということ、私はやっぱり費用の見積というのは最初に評価するということにして、反対意見を避けるというふうなのが背景にあるのですよね。

さらに、公共事業のようなものが外部性と呼ばれる特殊な問題を抱えておるので、経済学の分野では便益上、あらかじめ見積もるということが難しいところもあるのです。では、そのあたりどういうことですかということ、正確な費用と便益の比較分析はできないと、なかなかできないところでどういうことが生じてくるか。それをいいことに便益を過大に見積もって公共事業実施に有利に働くような、そういう面があったのです。こういうことはやっぱり背景にあるような気がするのです。

ただ、最近は問題意識が高まってきていて、そんなにそんなに政府の言うこと、公が言うようなことについて、そうかというふうに皆々思うようになってきているわけではないので、厳しくなっているところもあると思うのです。依然としてこういう傾向が公と、それから一般住民の間ではなかなか差が縮まっていないということもこういう公共事業の問題点がなかなか解決できない点もあるのではないかと。だから、政府自体の問題ももちろんあるのだけれども、やっぱり住民の意識というか、監視していくという体制自体というのも現実的には非常に大きな問題意識としてあって、今までさまざま多大な費用を掛けて、そして公共事業等をやられているのだけれども、それがこうなった原因というのは政府だけの責任ではないこと、我々の監視の体制というのはしっかりしなければダメなのだというようなことでも一面ではあるのだと思います。でも、これは最大の責任ではありませんよ、やっぱりこれはそういうことで非常に大事な視点でもあるのだと思うのです。

それで、ダムは何のためにつくられるか、というようなことであると、これはもうおわかりであるので、その目的は水が必要であるとか、電気が足りないとかということではなくて、これはどうしても公共事業にかかわる利権の問題ということをやったりどうしても係わらざるを得ない、これを問題視せざるを得ないのだというふうに思うのです。

それから、あとダムにかかわる手段はないのだろうか。多目的ダムというふうに言われることで、これが矛盾していることは皆さんよくわかっていることなので、喝水、発電のためにダムというので水を貯めなければならないし、洪水に備えるためにはダムを空にしなければならないという両方の目的を達するということはできない、そういう矛盾があるということでもあるわけです。

そのほか多目的ダムのさまざまな問題については、皆さんよくご存じだと思うの

だけれども、そこからどういう問題が出てきているか、そこを覆い隠すような、その辺がなくはない。

それで、私は無駄な公共事業というふうなこと、これはあるわけなのだけれども、税金をどんなふうな使い方をすべきだというふうになりますと、今大震災という、それから原発の事故が起こって大変苦しんでいる方がいらっしゃるわけですね。そういうことでの金の使い道ということはもう十分に考えて、無駄なこういう…、ダムもそうなのだけれども、これをやめようではないかということをご提案したいというふうに思います。

○住民（４番）

十文字町に住んでおります●●です。82歳と9カ月になりました。メモもちょっと私の不始末で準備したものがここで読めない状況で本当に申しわけないし、それからご検討いただいたこれまでの報告をお聞きしていると非常に大変詳細にわたって検討なされているわけですが、それを十分に、当然ですので、読まないままで申し上げることで本当に申しわけないと思います。ただ、こういう事業というものは骨があるわけですね。出発に当たっての理念というのですね。理念が今回のそのどこかに書いてあると思うのですが、ちょっと私すぐには見つけられないので、さっきお話ありました平成21年の雄物川流域水系でしょうか、管理計画素案ですか、その中で見ましたら、冒頭に大変立派な内容の、大体3つの項目が表記されておりました。これは今の新しい河川法にほぼ精神的にも従った、私としても自分で十分な検討もなく本当に申し上げて、悪いのですけれども、よくできていると、大切なご提案だと思います。

問題は、その理念が実際の今現在の詳細な計画にどのように整合性を持って行われているか、この点について私は若干の私なりの本当に粗末な意見を申し上げます。

それで、まず川、これこちらですと前につくられた雄物川で、湯沢工事事務所で管理していらっしゃるのが大体この赤い線の範囲、玉川の部分、こっちはもうあります、半分ね。それで、私のほうの湯沢工事事務所で全部ここら辺までみんなやっちゃっているのですが、成瀬川、皆瀬川、役内川、この部分についての、この辺の成瀬ダムにかかわる部分について考えてみたいわけですね。大変広い部分です

ね。

全体としては4千いらかあるのですが、そのうちの平地部分というのが1,107平方キロと言ったかな、何かその程度あるそうです。それで、その平地の部分、そこがどのように利用されているのか、これも先ほどの管理計画の中に細かなパーセンテージが一応概数ですけども、出ております。それを見ますと、大体何%だったかな、そのメモをここに持ってこなくて申しわけないのですが、70%は軽く超えていたような気がします。もっと大きかったかな。

裸地ね、それから道路についてはありませんでした。それから、田畑、耕地ですね、それから何かありましたね、もう一つ、荒地か。いろいろあります。そういうものを足して、そういうところも含めての平地なのです。その平地の中で、国交省が管理なさっているのはまず今日のお話を聞いても、非常に小さな狭い部分です、河床ですね。現在、堤防ができていないところもありますが、ほぼ川と称して流れている川のところです、河床。その部分の面積というのは非常に小さいです。

それで、この大部分は誰が使っているかといいますと農水省とか、それから経済産業省とか、そういうところの人たちが使っているわけです。この人たちが非常に恣意的な使い方をしているのです。物すごい無駄遣いをしている。それを例えば私はここに大正2年、ここの地域で一番早い陸地測量部の地図を持ってきましたけれども、それ見ますと、例えば岩井川、あそこは岩崎のところに耕地整理された田んぼがちょっと見えます。それから、十文字のところ、当時の田んぼ、農水省にかかわっていますが、田んぼを使った人たちは、それをきちんと反復水を使って丁寧に使っている、そういう姿が地図から読めます。それから船、かつては船が500石ぐらいの船が角間のあたりまで来たのですよ、今それ来ますか。それから、さらにそこで積みかえて500石ですよ。

とにかくその水どこへ行ってしまったのか。それは農水省の言っている土地改良事業、田んぼ、耕地に行っているわけですが、その水がホームページで言うように洪水調節にちゃんと行われているかというところではないのです。これは構造的にそういう構造になっているのです。だから、国交省が幾ら逆立ちしたって次々にそういう無駄遣い、これは厚生省の水道についても同じです。それから、土地改良区の仕事で言いますと年々地下水位が下がっている。その原因は大正2年の農家が使

った耕地における水の利用と全く違う、当時は大変無駄遣いしないで丁寧に使っている、それが見えます。今は一直線に走る無駄遣い構造になっている。こういうものをどんどん、どんどん国交省ではのまされて、そしてどんどん、どんどんそれをまた新しい事業としてつくっていく。でも、天から降ってくる水は決まっています、毎年。今年みたいに殆ど降らない年もある、ここら辺ね。それから、大量に降る年もあります。決まっています。その決まっている範囲内で、ある場合はいくらダムをつくったって制御できないし、ある場合はいくらダムをつくったって貯まらない。水の流れもそうなのです。これ地球、それからこの地域、その自然、そしてそれを理念としてはお互いの未来の世代に対して調和なる量と、それをうたっている、それをもう一度ここでご検討いただいたかもしれないけれども、きちんとやっていただきたいと、そういうことです。

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見を聴く場

日 時：平成24年10月27日（土）10:00～11:10

場 所：大仙市仙北ふれあい文化センター1階 談話室

発表者：意見発表者

○住民（1番）

おはようございます。私は、農家の主婦として、今、毎日田んぼや畑の作業をして頑張っております。5分間という短い時間ですので、早速意見を述べさせていただきます。

私の近所の農家の母さん達と話を毎日しているわけですが、農家の母さん達は異口同音に「成瀬ダム、そんなもの要らねえ」と、もうそれで終わってしまいます。

ことしも大変な猛暑でした。でも、米はカメムシや割れる米とか、そういう異常な米もありますけれども、秋の実りを迎えてちゃんと米を収穫することができました。

農家の母さん達の話によれば、用水路に水がとうとうと流れてくる時期に上流のほうの用水路から水があふれ出ている、「あれ、もったいないよな。下流のほうの田んぼで稲をつくっている人たちに申しわけねえよな」と、そういう話をしております。水は足りています。農家は、今この成瀬ダムのことを本当に問題視してないです。本当に関心が薄いです。それが1つです。

2つ目です。ダムは洪水を防ぐということで、成瀬ダムの目的の中に書いてありますけれども、私が今住んでいるところはもう先祖代々ずっと洪水が繰り返し、繰り返し起こってきた地域です。でも、その洪水のおかげで川からのいろいろな堆積物がその土地の豊かさをもたらしてくれました。今はとても肥沃な大地としてそこで米や野菜をつくっております。ですから、成瀬ダムをつくることによって、洪水を防ぐのではなくて、洪水が今までも起こってきた地域を遊水地としてきちんと後世に引き継いでいけるような、そういう土地にしていくことが大事だと私は思います。

それから、ダムの水を水道用水にという、そういう目的があるようではありますけれども、日本全国のダムに貯められた水はもう腐っております。生きている水ではありません。山の奥のほうの清流の中には魚がたくさん生きて泳いでいますけれども、皆瀬川のほうに皆瀬ダムができた以降は、皆瀬川で魚釣りをしていた漁師さんたちもダムができてから川の水が濁って魚が本当にいなくなると、いる魚も小さい魚しかないということで嘆いております。

私たち人間がダムに貯められた水を飲んで、それを水道用水として自分たちの生活の中で使うためには塩素で消毒したお水をいただくわけですが、今は浄水器というものが発達してきておりまして、塩素を取り除いて自分たちの生活の中に取り入れようとしている人達が多く見られます。決して成瀬ダムの水は私達の生活を潤す水とはなっていません。流れる水、山から染みてきているああいう水こそおいしい水だというふうに私は考えます。

それから、流水の正常な機能の維持ということで、皆瀬川における流水の正常な機能の維持と増進を図るといふ目的がありますけれども、これについては皆瀬川の川を見ていただければわかりますが、堆積物が多くて川の真ん中に木が生えてしまったりしております。そういった皆瀬川全域をきちんと整備するような、そういう活動がきちんとなされていない現状で成瀬ダムの水がこういう、正常な川の流水の維持につながるというふうにはなかなか考えられないように私は思います。今現在あるものをきちんと使うという方向を考えていきたいなというふうに思います。

それから、成瀬ダムを利用して水力発電を行うということが掲げられております。昨日も岩手県と宮城県で地震がありました。私は、数年前岩手・宮城内陸地震のときに東成瀬村の山々が相当被害を被ったところを見てきております。そういったこともありまして、東成瀬村のあの地域は非常に昔も地震があった地域です。大きい岩が村の中に祀られている場所がありますけれども、去年の3.11の東日本大震災の後、福島で原発事故があったわけです。数日前の報道にもありましたが、12万年前、13万年前、いや、40万年前以降の活断層のあるところには原発施設をつくらない、そういう方向を考えているというふうに新聞報道でもありました。私はダムをつくるときにもきちんとそういうことを踏まえた形で設置をしていくことが必要だというふうに思います。

それと去年の3.11東日本大震災、そして福島原発事故が起こってしまって、ま

だ原発事故の収束を見ておりません。まだまだ放射能が日本全国にばらまかれている状況の今、私たちはせめて日本の国土を残すことを考えていかなければいけないというふうに思います。農家の母さん達が水はもう十分足りている、成瀬ダムは要らない、必要ないということを、ぜひ今この時期にもう一度再認識して、もっと視点を変えて、成瀬ダムではなくて、もっと別の方向を探っていく、そういう河川行政というものを私は望みたいと思います。

今日、私は生活の場で感じていることを本当に率直な気持ちで述べさせていただきました。ありがとうございました。